

# からだを奏でる ヘンテコな授業

体育のような国語のような  
音楽のような図工のような

体奏家・ダンスアーティストの新井英夫さんは、年齢や障害のあるなしを越えたバリアフリーな身体表現ワークショップ「ほぐす・つながる・つくる」を全国の教育・福祉・社会包摂の現場で展開してきました。

教育分野では通常学級だけでなく特別支援学級(学校)でも「おと・もの・うごき」を自由に行き来しながら、自分自身の身体感覚を豊かにし他者の存在も尊重しながら即興的共創を体験するワークショップの実践で定評を得ている方です。

そんな身体表現の場づくりを探求してきた新井さんですが、2022年夏にALS（筋萎縮性側索硬化症）という全身の筋肉がだんだんと動かなくなってしまう不治の進行性神経難病に罹患していることが判明しました。「病気になってから障害をサポートする・されるという境目を飛び越えて、初めて気づかされたことがたくさんある。今もその間をゆらゆらと行ったり来たりしながら生きています。日々オモシロイ発見です(笑)」と新井さんは語ります。現在新井さんは手足はかなり不自由になっていますが、電動車椅子を操りパートナーの板坂記代子さんと工夫しながらワークショップの仕事を続けています。新井さんからは「病を得てから」の気づきや言語以外のコミュニケーションのヒントについてもご教示いただく予定です。

「誰もがいきいきと存在を肯定しあえる場づくり」について、ワークショップを通してからだの実感から学び合う機会にしたいと思います。



2024年10月15日(火)  
13時~15時30分  
広島大学教育学部  
G205教室  
参加無料・定員15名

※動きやすい服装で来てくださいね。  
※オンラインでの見学(視聴)も可能です(定員なし)。

## 講師

新井英夫 Hideo Arai



埼玉生まれ、東京在住。体奏家・ダンスアーティスト。十五夜のビルの谷間での投げ銭方式の野外劇など風景やマチと関わる劇団活動「電気曲馬団」主宰を経て、のち独学でダンスに。自然と共に力を抜く身体メソッド「野口体操」を創始者野口三千三から学び深い影響を受ける。国内外での舞台公演活動との両輪として「からだを奏でる」ワークショップを教育・福祉・社会包摂などの場で幅広い対象に実施してきた。

板坂記代子 Kiyoko Itasaka

山形生まれ、東京在住。大学で銅版画制作を行ったのち、2006年新井英夫の野口体操と体奏に出会い、即興をベースにした身体表現を学ぶ。身体活動と造形のワークショップ活動とともに「てきとう手しご工房」と称して、かつての暮らしにあった手仕事の「成り立ち」に着目し「人の手の仕事」を幅広く探求中。「手仕事×感覚遊び×カラダ×即興」がテーマ。



参加ご希望の方は、  
9月30日までにフォームでお申し込みください。  
<https://forms.gle/tk6HzEfRFGbHg48v9>  
※講師の体調によってはオンライン開催になる場合があります。



お問い合わせ：広島SDGsコンソーシアム事務局  
(広島大学教職大学院 寺内大輔) [terauchi@hiroshima-u.ac.jp](mailto:terauchi@hiroshima-u.ac.jp)